

# 麦・たまねぎ・ てんさいの殺菌剤



## シルバキュア® フロアブル

麦の赤かび病(DON)、  
うどんこ病、赤さび病に

たまねぎの小菌核病、  
白斑葉枯病、灰色腐敗病に



赤かび病



赤さび病



小菌核病



白斑葉枯病



**カンタン希釈!**

1,000リットルに  
500mlボトル1本!

(テブコナゾール40%)  
農林水産省登録 第20285号

- 1.幅広い殺菌スペクトラムを有しています。
- 2.浸透移行性に優れています。
- 3.散布適期幅の広い薬剤です。
- 4.麦の主要病害に有効で、DON(かび毒)の低減も期待できます。
- 5.たまねぎの小菌核病に対し、早めの防除で高い効果を発揮します。
- 6.たまねぎでは収穫前日まで使用できます。

## ■適用病害および使用方法

(2019年4月現在の登録)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10アール当り 使用液量(L)	使用時期*	使用回数*		使用方法
					本剤	テブコナゾール	
小麦	なまぐさ黒穂病 雪腐小粒菌核病	1,000	60~150	根雪前	1回		散布 無人航空機による散布
		1,000~2,000					
		500 16					
	赤かび病 赤さび病 うどんこ病 黒点病 黒変病	2,000	60~150	7日	2回	(根雪前は1回、 融雪後は2回)	散布 無人航空機による散布
		500	25				
		16	0.8				
大麦	網斑病 うどんこ病 赤かび病 黒点病 黒変病	2,000	60~150	14日	2回		散布 無人航空機による散布
		16	0.8				
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	2,000	100~300	前日	3回	3回	散布
ばれいしょ	夏疫病			7日			
てんさい	葉腐病 褐斑病			100~120			
豆類(種実、但し だいずらっかせいを除く)	菌核病	2,000	100~300	7日	3回	3回	株元散布
だいず	黒根腐病	200	100	出芽4週間後以降 但し、収穫7日前			
飼料用 えんぱく	裸黒穂病	600	種子1kg当り 希釈液30ml	は種前	1回	1回	種子吹き付け処理 または塗沫処理

\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。

## ■赤かび病防除ポイント

	(出穂期)	(開花期) 開花始め	(乳熟期)	最初の防除を行う生育時期
小麦		7日間隔 シルバキュア <sup>®</sup> 散布	2回目以降	開花始め：全穂数の5%が開花した日 (出穂期後4~5日くらい)

- 赤かび病は穂が出揃った開花期に1回目の防除を行うことが重要で、シルバキュア<sup>®</sup>を使うことが効果的です。
- 2回目以降の防除は、地域の気象条件、過去の被害の状況等に加え、JA、普及指導センター、農業団体、病害虫防除所等関係機関の指導に基づき防除願います。

## ■たまねぎにおける防除適期

月 旬	3			4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ	は種期			育苗期間			移植期	活着 地下部伸長期		葉数 増加期		茎葉伸長期		りん茎肥大期		倒伏期		枯葉期		収穫	
病害発生時期 と防除時期	白斑葉枯病 (灰色かび病)						小菌核病 灰色腐敗病 (貯蔵腐敗)						小菌核病 防除適期			灰色かび病 防除適期			灰色腐敗病 防除適期		

## ■注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきって下さい。
- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振って下さい。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
  - ①散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
  - ②散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
  - ③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
- 小麦に対して希釈倍数500倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用して下さい。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節して下さい。
- 周辺農作物に対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意して下さい。
- 適用作物群に属する作物又はその新種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤飲、誤食などのないように注意して下さい。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の処置を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受けて下さい。
- 使用の際は農業用マスク、不透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手、顔などを石けんでよく洗い、洗眼-うがいをするともに衣服を交換して下さい。
- 直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管して下さい。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収して下さい。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めて下さい。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。



●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00, 13:00~17:00  
土・日・祝日を除く

(F-2064 19.04.JWT)